

# 「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部  
創立10周年に寄せて

39

私が卒業した高校の校歌は「霊気みなぎる五葉山」で始まりました。五葉山の名は知ってはいませんが登ったのは高校生の時。一年生全員が夏休みに入る直前、テントや食料など一式を自分たちで担いで、今のシャクナゲ荘あたりで一泊したのが初めてでした。

その季節は、登山道脇にハクサンシャクナゲが咲いていたと思うのですが、今、思い出そうとしても花だけが思い浮かびません。たぶん、花を見る余裕もなく疲れてきたのだと思います。

テント泊した翌朝早く、一人テントを抜け出して日枝神社前から見た朝霧に包まれた風景は、今も心に焼き付いています。また、初めて自分たちだけで米を研ぎ、飯盒で炊いたごはんのうまさは今も自分の中では忘れられない味となっています。

卒業してからはこの地を離れたり、また故郷の山を振り返る余裕もなく何年も五葉山と無縁の暮らしを送っていました。故郷に戻り、ある程度の年齢にも達し、そして心に余裕というものができたころ、私はかねてか

らあそこがれの尾瀬に向かいました。最初は水芭蕉の季節から始まって夏のニッコウキスゲ、または周りの山々に登るために数年通い続けました。

山を改めて知ることになりました。尾瀬をよく知るためには地元ガイドと一緒に歩いたり、または山小屋に泊まったりと日常とはかけ離れたゆったりとした時間が必要となりました。

実は、この日本の自然保護の原点と言われる尾瀬で我が故郷の山、五葉山を改めて知ることになりました。尾瀬も鹿の「侵入」による被害に悩まされているのです。鹿がニッコウキスゲなどの草木を食べ

たり、土を掘り起こしたりする被害が近年深刻化してきて、観光への影響も懸念され鹿対策が急務となっていました。そのころの私は遠くの山、また高い山へと心が向いていたもので、この質問に対しては恥ずかしながら明確に答えることができませんでした。

知られ、またホンシユウジカの最北の生息地としての五葉山の増え続けている鹿対策について、尾瀬の自然を守っている人たちは関心を寄せていたのだそうです。そのことを境にして、また五葉山に登り始めたのです。が、時代の流れと言っているのでしょうか、昨今の中高年の登山ブームの影響からか、毎

年花の時期になると駐車場も収まりきれないほどの車があふれ、多くの登山者がある一時期に集中して押し寄せるようになっていました。山が、自然が愛されることには地元人間としてうれしいことなのですが、登山道には新たな踏み跡がつけられ、日枝神社から山頂への稜線道は

以前はなかったロープで仕切られています。そして、かつては偶然にしか出合うことのなかったホンシユウジカとの遭遇も頻繁になりました。一因は私たち人間側にもあると思うのですが、確実に五葉山にも自然環境の変化が訪れるように見受けられました。

私たちは今ここにある自然を当たり前のもと

は考えずに、もう一度自然を守り続ける意味をこの五葉山から感じてほしいと思っています。尾瀬への鹿の侵入を防ぐために、とうとう防護柵が取り付けられたそうです。【執筆者プロファイール】大船渡市末崎町在住、五十歳。日本自然保護協会自然観察指導員、気仙エコ倶楽部主宰、ホームページ、ブログにて地域情報発信中。

## 尾瀬にて故郷の山を知る

大船渡市末崎町 古澤 文夫



当然、地元の方々との交流の時間も多くなり、私が岩手の大船渡か

「花の百名山」として

社から山頂への稜線道は



雪の五葉山とシャクナゲ山荘